

城陽市エリア



1 水度神社
創建の時期ははっきりしませんが、平安時代初期の文献に名前が出ています。本殿は文安5年(1448年)の建築で重要文化財に指定されています。



2 鴻ノ巣山
鴻ノ巣山は海拔117mであり、山頂からは、木津、淀川が一望でき、遠くには生駒、比叡、愛宕の連山をはるかに望むことが出来ます。春には咲き競う桜やツツジの花が見られます。現在は、散策道や東屋、展望台、さくら見台、花しょうぶ池が整備されています。



4 森山遺跡
木津川を見渡せる丘陵に広がる縄文時代から古墳時代にかけての集落遺跡です。現在は、遺跡公園として遺構の一部が復元されています。

井手町エリア



7 高神社
和銅4(711)年創立。慶長9(1604)年に建てられた三間社流造りの現在の本殿は京都府指定文化財に指定。鎌倉時代の獅子頭や町内の歴史が綴られた古文書の多くが保管されているゆかりの深い神社。鎮守の森は京都百選のひとつ。



10 六角井戸
橋諸兄の邸宅・玉井頓宮の名残といわれる井戸。

木津川市エリア



13 高倉神社
平安時代末期の後白河法皇の第二皇子以仁王を祀る神社で、隣接して以仁王の御墓がある。『平家物語』によると、治承4年(1180年)に平家に追われた以仁王は、南都の興福寺をたよって都を落ちる途中、この地「光明山の鳥居の前」で流れ矢に当たって落命したとある。



16 碓井大塚山古墳
全国でも屈指の大きさを誇る前方後円墳で、出土した30数枚の三角縁神獣鏡は、卑弥呼の鏡といわれ、「邪馬台国畿内説」の最大根拠になっています。



18 泉橋寺 石造地藏菩薩坐像
天平13年(741年)、泉川(今の木津川)に橋を架けた僧行基が建立した寺です。同寺の石地藏は行基の作とされ、高さ4.58mで坐像の石仏では日本一の大きさといわれています。



19 惣墓五輪塔
花崗岩で造られていて、正応5年(1292年)の刻銘があります。年代の明らかな五輪塔として歴史的にも貴重で、重要文化財に指定されています。



3 城陽五里五里の丘
城陽五里五里の丘は、府民の皆さんといっしょに自然を再生する公園として、平成26年春にオープンしました。「楽しむ」「参加する」「はくくむ」公園として、「熱気球フェスタ」など、年間を通じてさまざまな活動を行っています。



5 中天満神社 (黒土古墳)
祭神は菅原道真公。創立、由緒は詳しくはないが、神殿棟札によれば、慶長11年(1606年)8月とある。明治6年8月村社格に列し、明治41年4月幣饗料供進社に指定される。例祭は10月16日。本殿の左右に末社があり、右は蛭子神社(祭神蛭子命)左は須久禰神社(祭神少彦名命)。神社周囲に黒土古墳が10基ある。



8 地蔵禅院
井手の里を一望できる高台にあり、参道や院内から眼下に広がる風景は京都百景のひとつに選ばれています。毎春、見事に咲き誇る「しだれ桜」は京都府の天然記念物に指定されています。



11 橋諸兄公旧趾
奈良時代に聖武天皇のもとで左大臣として活躍すると同時に万葉集の編者としても知られる橋諸兄はこの地を愛し別荘を構えました。



14 蟹満寺
白鳳期末期(680年代)に建立されたと伝えられ、『今昔物語集』や『古今著聞集』に出てくる蟹の恩返し縁起と国宝の釈迦如来坐像で有名です。



17 玉臺寺 (狛弁財天社)
玉臺寺はもともと真言系寺院で、狛の弁才天社の宮寺として、山城国一揆の中心となった国人、狛氏の保護下にあった。江戸時代に入り、狛氏がこの地を去ると、廃れてきたが、妙心寺の僧智堪和尚がこの地に入り、荒廃した玉臺寺を再建した。本尊の十一面観音立像は室町時代の作とされる。狛弁財天社は、一族の守護神として、狛野荘の荘官をしていた狛但馬守頼久が永享9年(1437年)に造営したものであると伝えられている。



19 惣墓五輪塔
花崗岩で造られていて、正応5年(1292年)の刻銘があります。年代の明らかな五輪塔として歴史的にも貴重で、重要文化財に指定されています。

6 青谷梅林
青谷梅林の起源についてはあきらかではありませんが、後醍醐天皇の皇子宗良親王の歌に「風かよふ 綴喜の里の梅が香を 空にへだつる 中垣そなき」とあることから鎌倉末期ごろにはすでに梅林があったとの説もあります。およそ20haの面積に梅が咲き誇り、芳しい香りにより観梅客を魅了しています。例年2月下旬～3月上旬の見頃にあわせ、「春は城陽から」をキャッチフレーズに梅まつりが開催されます。



9 小野小町塚
小野小町は晩年、井手寺に住み、玉川堤を散歩したという伝承があります。玉津岡神社の参道沿いに建つ自然石を積んだ塚は、その小町の墓と伝えられています。



12 蛙塚
「井手」と「かはづ」は共に古来から多くの歌に詠まれてきた。町内には蛙塚の他蛙橋、蛙の手水舎がある。



15 涌出宮 (和佐神社)
創建は古代に遡り、境内全域が弥生時代の集落跡という有形無形の文化財の宝庫です。2月に行われる「いごもり祭」は南山城地方最古の祭です。



20 岡田国神社
生国魂命と菅原道真を主祭神とする。創建は斉明天皇5年(659年)9月。昭和58年、4万坪の境内地の一部が日本住宅公団に買収され、その代金によって新社殿が建立された。旧社殿は舞台を中心に拝殿・氏子詰所を配する旧相楽郡地域に伝わる社殿配置形態を止めている。室町時代の惣の社の姿を伝える重要なものとして京都府登録文化財となり、保存されている。



20 岡田国神社
生国魂命と菅原道真を主祭神とする。創建は斉明天皇5年(659年)9月。昭和58年、4万坪の境内地の一部が日本住宅公団に買収され、その代金によって新社殿が建立された。旧社殿は舞台を中心に拝殿・氏子詰所を配する旧相楽郡地域に伝わる社殿配置形態を止めている。室町時代の惣の社の姿を伝える重要なものとして京都府登録文化財となり、保存されている。



山背古道は京都府南部の城陽市、井手町、木津川市の3つの市町にまたがる全長約25kmの散策道です。

山背古道探検隊 監修

お問い合わせ

山背古道推進協議会

城陽市役所 商工観光課
☎0774-56-4019

井手町役場 企画財政課
☎0774-82-6162

木津川市役所 観光商工課
☎0774-75-1216

山背古道に伝わる民話

城陽市

① 夜叉哀話

むかしむかし、寺田に寺田庄司と呼ぶお代官がおった。このお代官には娘さんが一人おったんやが、かわいそうなことになんべん結婚しても主人が死んだり、不仲になったりしてうまいこといかんと戻ってきたそうや。

こんなことには世間の人は冷たいもんで、娘さんが醜い顔をしてたかどうかはわからんけど、「夜叉」とあだ名をつけてうわさをしたそうや。たび重なる不縁とうわさのためにすっかり悲観した娘さんは、髪をおろしてとうとう尼さんになってしまった。家のそばに堂を建て、観音さまに仕えて余生を送ったんやと。

この娘さんが死んだあと、だれいともなく「観音堂の前を嫁入り行列が通るとたたる」と伝えられるようになり、嫁に行くときは近くに住んでいても遠回りをして、嫁ぎ先へ向こうたという。

② 雨乞い地蔵

常楽池のお地蔵さんは雨を降らすお地蔵さん。暑かったら苦しいさかいに、自分で天から雨を降らすいうて雨乞い地蔵さんという。

4月と8月に20日間の雨の降らん時、お地蔵さんを池から引き上げてきれいに洗って常楽寺の和尚さんに護摩木をたいてご祈禱してもらたら1週間までに八分は雨。熱うて雨を降らすと言うこと。

③ 牛馬の守護神

今から千年も前の話。綴喜郡、相楽郡のあたりにアブがたんといえて、牛や馬に食いついては血を吸い取ってしまうた。

牛も馬も弱ってしもうて、あっちこっちでバタバタと死んでいきおった。農家の人はみんな大弱り。これはなんかのたたりとちゃうかいな、と神さんにお伺いをたてたところ、やっぱり樺井月神(かばいげっしん)という神さんのたたりやとわかった。

この神さんは水主神社(みずしんじや)の鎮守の杜にいらっしゃる。農家の人は朝廷の勅使とともに、いっしょけんめい祈ってみると、不思議なことにあれだけたくさんいたアブがどこかへ飛んで行ってしまい、牛や馬もみんな元気を取り戻した。

それからというもの、毎年2月の20日になるとあちこちから牛や馬を引いてお参りにくるお百姓で、小さいお宮さんの境内はいっぱいになったという。

井手町

④ 小野小町

平安時代初期の歌人で六歌仙の一人である小野小町は日本の歴史上の代表的な美人である。著名な歌人ででありながら、生誕や終焉の地、名前、身分などが定かではなく小町を巡る伝説が日本各地に広がっている。京都府でも10箇所ほどあり、山背古道沿いの井手の里にも足跡を残している。

「小町集」に「山吹の歌」

色も香りもなつかしきかな 蛙なく井手のわたりの山吹の花
「伊勢物語抄」 小町は井手寺の別当の妻で、69歳にして井手寺でなくなる
「百人一首抄」 小野小町のおはりけるは山城の井手の里

⑤ 井手の下帯

昔、帝の勅使として大和に向かうため、途中山城国の井手を通った男が、橋坂の近くで会った美しい少女を呼び寄せ、「貴方が大きくなったら女房になってくれないか」と帯を解いて与えたが、しばらくするとこのことを忘れてしまい、8年後に再び井手の里を通った際、男を待つ女性と再会したという大和物語にある話

⑥ 橘諸兄の山吹

橘諸兄(たちばなのもろえ)は、684年一大宰帥美努王の子として生まれ、元の名前を葛城王(葛木王・かつらぎのおおきみ)と言った。736年弟の佐為王と共に母・橘三千代の姓氏である橘宿禰を継ぐことを願い許可される。これ以後、橘諸兄と名乗る。

その後疫病の流行によって藤原四兄弟や多くの政府高官が死亡して議政官がほぼ全滅し、急速この年に諸兄を次期大臣の資格を有する大納言に、翌年、諸兄は正三位右大臣に任命されて一躍朝廷の中心的地位についた。

これ以降の国政は、事実上橘諸兄が担当し、聖武天皇を輔佐。749年には正一位左大臣となる。

左大臣橘諸兄は井手の里に別荘を構え、玉川の堤に山吹を植え、その花を愛でた。以降「井手の玉川」は山吹の名所として広く知られる枕詞になっている。平安時代には多くの歌人が歌に詠み、江戸時代には広重の版画、狩野探信の屏風絵にも登場している。



木津川市

⑦ 蟹の恩返し

昔、この地に信心深い親娘が住んでいた。娘がある日村人に捕まった蟹を助けてあげた。また、とある日、娘の父親が大蛇に飲み込まれようとする蛙を「娘を嫁にやる」という約束で助けた。

数日後、大蛇が若者に化け、約束どおり娘をもらいにやってきた。親娘は、一心不乱にお経を唱え、大蛇が退散するのを願ったが、怒り狂った大蛇は家の周りで暴れまわった。

しばらくして、静かになったので親娘が外に出てみると、無数の蟹と切れ切れになった大蛇の死骸があった。かつて娘の助けた蟹が恩返しをしたのだった。親娘は、蟹と蛇の霊をとむらうために寺を建てた。それが蟹満寺である。

⑧ 泉橋寺のお地藏さん

上狛の泉橋寺の門前に日本一大きなお地藏さんが座っておられる。奈良の東大寺を立てていた頃、材木は木津川の上流で切り出され、いかだで流されてきて木津から奈良に運んだ。その年は雨が少なく材木が笠置あたりで止まってしまい、下流に水も流れなくなった。行基様に雨乞いの祈禱をお願いし、大雨は降ったが、激しい雨で川に入っていた人をも飲み込んでしまった。行基様は自分の罪のように嘆かれ、なくなった人達のため、お地藏様を刻まれ供養することになった。

行基様の枕元にお地藏様がたたれ、木津川を見ていたの日本一の高さにして欲しいと言われ、作られた。

その後、戦でお堂が焼かれてしまったが、お堂がないほうが木津川がよくみえるというお地藏様のことばですとお堂がないまま木津川や人々を見守っておられる。

⑨ ならすの柿

木津の安福寺の近くに「ならすの柿」がある。この柿の木は、源氏に木津で捕らえられて処刑された柿の好きな平重衡をしのんで植えられたが、実はならなかった。ところがある年実がなったが、翌年日清戦争が起こった。さらに10年後にまた実がなったが、翌年日露戦争がおこり、それから20数年後の昭和6年に実がなり、太平洋戦争の前触れとなる出来事が起こり、実がなると戦争が起こると伝えられ、この柿は実をつけず平和を願っている。

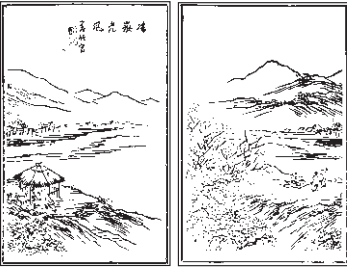
山背古道にある八景

城陽市青谷

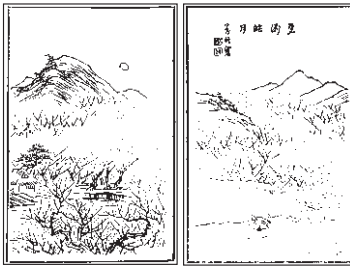
青谷八勝：明治33年に青谷保勝会が発行した「青谷絶賞」で、紀行文と詩画によって世人に青谷梅林を紹介したものです。

- ・播岳光風 (ばんがくこうふう)
播磨崎山上に東屋。城西・河和・摂丹の諸山連なり木津川の長流が大蛇が横たわるよう。
- ・堂山淡霞 (どうやまたんあい)
堂山絶頂は老梅で、枝枝に苔、南青谷は朝もやが林麓に立ち籠める。
- ・天鎖遠思 (てんれいえんし)
他の山々に抜きんでた天ノ山から南面に青谷川。
- ・石上浅流 (いしがみせんりゅう) 石神から青谷川
- ・莊原高士 (そうげんこうし)
- ・達谷美人 (おたにびじん)
- ・白阪香雲 (しろざかこううん)
- ・碧淵皓月 (へきえんこうげつ)
皓々と輝く孤月は静かに淵の底に影を落とす

(口語訳「青谷絶賞」より)



播岳光風



碧淵皓月

井手町

玉川：桜と山吹で春を彩る玉川は、いにしえより歌にも詠まれる井手町を代表する河川。全国にある歌枕に使用される玉川を合わせて六玉川(むたまがわ)と呼ばれています。

- ・野路の玉川：滋賀県草津市
明日もこむ 野路の玉川 萩こえて 色なる波に 月やどりけり (千載)
- ・野田の玉川：宮城県多賀城市、塩釜市
夕されば 潮風こして 陸奥(みちのく)の 野田の玉川 千鳥鳴くなり (新古今)
- ・調布の玉川：東京都を流れる多摩川 東京都
多摩川に 曝す手作布 さらさら 何ぞこの児の ここだ愛しき (東歌)
- ・井手の玉川：京都府井手町
駒止めて なほ水かはむ やまぶきの 花の露そふ 井手の玉川 (新古今)
- ・三島の玉川：大阪府高槻市
見渡せば 波のしがらみ かけてけり 卯の花咲ける 玉川の里 (後拾遺)
- ・高野の玉川：和歌山県高野町
忘れても くみやしつらん 旅人の 高野の奥の 玉川の水 (風雅)



玉川



かわらなでしこ(木津川)



木津川

木津川市

木津川市

狛八景：江戸時代後期に近江八景になぞらえて「狛八景」が選ばれていたことが古文書に書き記されていました。旧山城町南部の名所八景を選び、一景ずつ和歌を織り交ぜながら道中案内をしているものです。

- ・泉川帰帆 (いづみかわきはん)
地蔵のまえ 道引く風に 帆を上て こまの渡りを かえるかわ船
- ・狛寺晴嵐 (こまでらせいらん)
狛寺の 法の鏡の 礎に かかる曇りを はらふ晴嵐
- ・狛野夕照 (こまのせきしょう)
むかしより 跳せぬ なてし子の こまのの原に 夕日てりぬる
- ・御霊夜雨 (ごりょうやう)
御霊なる 心も広き 手水鉢 清むる水の 尽きぬ夜の雨
- ・弁天秋月 (べんてんしゅうげつ)
弁天の 庭てる月の あきらけき 巖の影も ひかる瑞籬
- ・船門落雁 (ふなとらくがん)
雲路経て 都に近き こま野辺の 船門をさして おちるかりかね
- ・狛山暮雪 (こまやまぼせつ)
高麗山に 花まちくらす 北吉野 幾世積れる ゆきのふる里
- ・松尾晚鐘 (まつおぼんしょう)
神徳の 深き恵みを 松の尾や けふもゆたかと 夕暮れの鐘

山背古道歳時記(神社)



枇杷庄天満宮社
かぼちゃの台の神饌



水度神社 湯立て神事



おかげ踊り

春

おなごさ
女座の祭り (涌出宮)
おかげ踊り (玉津岡神社)
春祭り (栗神社)

夏

なごさ
夏越祭 (岡田鴨神社)

秋

おなごさ
饗応 (相撲奉納：涌出宮)
おかげ踊り (白山神社・玉津岡神社)
ひやくみ おんじき
百味の御食 (涌出宮)
湯立て神事 (水度神社)
木津御興祭 (御霊神社・岡田国神社・田中神社)
秋まつり
(平井神社・久世神社・水主神社・荒見神社・
枇杷庄天満宮社・旦棕神社・中天満神社・
市辺天満神社・賀茂神社・松本神社・多賀神社)

冬

おんだ きがなか
御田 (相楽神社・大宮神社)
きがなか
餅花 (相楽神社)
いごもり祭 (涌出宮)



山背古道の案内はこちらへ

山背古道探検隊

平成8年10月山背古道のルートの設定と同時に探検隊は活動を開始した。山背古道の沿道にある宝を再発見し、楽しみながらまちづくりに取り組むため、「梅探検」「お茶探検」「古道ウォーク」「お話探訪」などを行っている。
第2木曜日例会
連絡先 探検隊事務局 井手町企画財政課 (0774-82-5212)

城陽市観光案内ボランティア

京都、奈良の中間「五里五里の里」城陽のまちを広く知ってもらうため、観光ルートの案内や冬の光のページェント「TWINKLE JOYO」への参加などの活動。
連絡先：(一社)城陽市観光協会(0774-56-4029)

井手町ふるさとガイドボランティアの会

大仏開眼等に貢献した左大臣・橘諸兄公や、平安時代の歌人・小野小町ゆかりの史跡をはじめ、かわづ塚、六角井戸、玉川(山吹・さくら)等の名所を散策しながら訪ねるコースなどを案内している。
連絡先：井手町ふるさとガイドボランティアの会事務局
井手町教育委員会社会教育課 (0774-82-5700)

山城町ふるさと案内人の会

山城町教育委員会主催の「ふるさと案内人養成講座」受講メンバーで結成。地域の歴史・文化を町内外の人たちに伝えている。
連絡先：(一社)木津川市観光協会(0774-73-8191)

山背古道

アプリを見ながら山背古道を歩こう

体験・体感

アプリケーション

スマートフォン・タブレットで

山背古道の地図を片手に、GPS機能を用いて、楽しく快適に山背古道沿線を歩けます。

また、各市町の観光スポットの紹介や、山背古道の沿線に位置するお店(まちかど案内所)の紹介や、山背古道沿線に関するクイズも楽しめます。

端末

容量

言語

ダウンロード方法

● iOS端末、Android端末

● App Store (15.8MB)
Google Play (9.2MB)
※各OSのライブラリの違いにより、若干差が生じます。

● 日本語、英語対応

● iOS端末末
Android端末末

配信開始 無料

QRコード